

問題別調査結果 [数学]

江戸川区立松江第二中学校一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

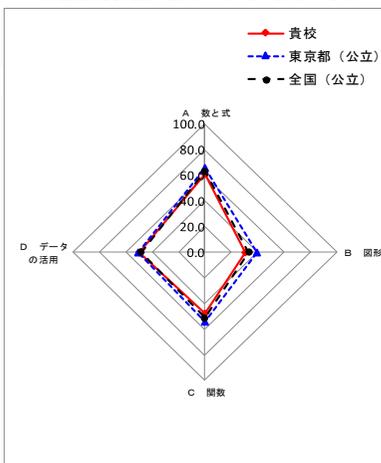
※ただし、4月18日に調査を実施していない学校については、4月19日以降4月28日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

集計結果

対象生徒数	江戸川区立松江第二中学校	東京都（公立）	全国（公立）
	109	71,470	893,114

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体		15	49	54	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.1	66.0	63.0
	B 図形	3	30.9	39.2	33.2
	C 関数	4	47.7	54.3	51.2
	D データの活用	3	50.2	50.4	48.5
評価の観点	知識・技能	10	54.8	58.7	55.7
	思考・判断・表現	5	38.3	45.8	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	41.5	48.5	45.3
	短答式	6	63.6	65.5	62.6
	記述式	5	38.3	45.8	41.6

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<現状把握>

- ・東京都平均正答率に比べて、特に図形・関数の領域が低くなっている。
- ・思考・判断・表現の観点と記述式の問題に対して正答率が低くなっている。これは、自校の単元テストや定期考査でも低くなっている。自身の考えや解き方をかくことに課題がある。基本問題はできるが、応用問題になると正答率が低くなってしまいうこともあり、基礎基本の理解を深めることが必要と考える。
- ・基礎計算力についても、東京都平均正答率を超えない。

<指導改善のポイント>

- ・図形の領域では、模型やICTを活用して、実物に触ることや視覚的に図形を学び、理解を深める。また、図形の面積や角度を求める計算問題に対応できるように計算力をつけていく。
- ・全学年、授業開始10分で小テストを行い、基礎基本の定着、計算力向上を図る。
- ・関数の領域では、授業で身近な生活の中にあるものにも触れ、興味関心、応用力をつける授業をする。
- ・思考判断表現や記述式への対策として、授業の中での教え合いや学び合いを行い、自身の考えをまとめ、伝える力や友達の意見や考え方(解法、途中式など含む)を知り、問題に対して多面的に解き方を考えることができる力を養う。また、小テストや単元テスト、定期考査でも記述式の問題に取り組み、生徒の経験値を高めていく。

